

特徴的な授業例を以下に掲げる。

- ・ 健康に関する情報や話題になっている健康法などを複数のメディアから情報収集して比較検討しながら分析する課題を提示し、レポートを提出させている。各メディアの特徴や医療情報の根拠を正しく判断し、利用者に提供する責務の理解と情報提供ができる能力を学ばせている

(3) 大学として必要な課題

具体的には以下のような意見がある。

- ・ 看護の現場に必要なICTの技術や知識を学ぶことに加えて、学生がいかにしてスタディスキルズを身につけるか、学生が主体的に学ぶために教員はいかに学修支援を行うべきか、大学教育の根源を視野に入れた研修制度が必要である
- ・ チームティーチングの立場から教員の研鑽過程を把握し、教員の養成について責任を負うことが必要である
- ・ 視聴覚教材、国家試験対策自習学修システム、リメディアル教育などに関する教材の制作及び相互利用が必要である

第4節 大学における情報活用能力の充実・強化の課題

1. 情報教育に対する積極的関心の形成

生涯に亘って学び続け、主体的に考える力を育成していく学士課程教育では、ICTを駆使して適正に情報を活用し、さまざまな知識を組み合わせることで課題発見・解決に取り組み、自分のビジョンを他者に発信していく能力が求められていることに鑑み、各大学で情報活用能力を実践的に身につける学修、いわゆる「情報教育」を学位授与方針の中に位置づけることが肝要である。具体的には、分野共通に求められる情報リテラシー教育と各専攻分野で求められる分野固有の情報教育との関係・役割を体系化し、学位授与方針やカリキュラム編成の検討などを通じて全学的に情報教育に取り組む意識合わせを進める必要がある。

2. 情報教育の体系的仕組みの確立

学生がグローバル社会、高度情報社会で主体的に行動するには、課題探求・課題解決の実践場面で情報活用能力を発揮できるよう質保証されねばならない。それには、初年次教育及び共通教育としての情報リテラシー教育、情報倫理教育の学修成果を専攻分野のさまざまな教育の中で実践させ経験を積ませることを通じて、市民として身につけるべき情報活用能力の修得を目指すべきである。

そのためには、全ての教員がそれぞれの授業の中で情報活用能力の育成に関与していくことが重要である。新たに情報教育の授業科目を設定するのではなく、既設の授業科目の中で学生に情報活用能力の知識・技能・態度の活用体験を繰り返す学修を教員間の連携・調整・協働を通じて体系化することが必要となる。例えば、全ての学生が身につけるべき情報リテラシー能力、情報倫理能力の到達目標及び教育内容・方法などを本協会のガイドラインを参考に教員全体で共通理解する。その上で専攻分野の授業と連携して活用訓練を実践し、学修成果を達成する仕組みを確立する。また、専攻分野固有の情報教育については、分野ごとの授業で本協会の分野別教育のガイドラインを参考に到達目標及び教育内容・方法を確認し、授業間で情報教育の役割分担を明確化した上で、学修成果の点検・評価・改善の仕組みを構築しておくことが必要である。

他方、イノベーションを実現する基盤的な技能としての高度な専門的情報教育では、成熟社会の

実現に貢献するため、専門領域の学修に加えて複眼的・俯瞰的に捉える学修として学際領域の教育及び教養教育と連携した教育体制が不可欠となる。分野横断的な学修を取り入れることで、新たな評価軸による発想の創出や価値の創造に関与させることを通じて、社会の期待に応える人材育成に繋げる。また、学修成果の質の向上を図るため産業界・社会を交えた実践的な学修を積極化するとともに、学内外での学修成果の発表・講評を通じて振り返りを繰り返すことで発展的な学修を目指す必要がある。

3．教員の情報活用能力の研修

学士力の一環として情報教育が位置づけられていることに鑑み、教員全員に情報活用能力の育成に関心を持つようFDの研修が必要である。例えば、「ICTを用いた情報活用能力とは何か」、「学士力の達成に情報活用能力がどのように関わっているのか」、「専攻分野の学士力を達成する上でどのような情報活用能力が備わっていなければならないのか」などの課題に応える研究会をFDの一環として組織することが望まれる。

学内に専攻分野を横断する情報活用能力育成の研究会を設け、全教員にイノベーションにつながる技能修得の重要性を情報教育のFD研究会を通じて呼びかけ、全学的な理解の共有を図ることが肝要である。なお、研究会の機能を高めるため近隣及び地域の大学が連携して研究会の拠点を設け、拠点校間のネットワークを通じて研究の成果を相互に共有することにより、大学全体の情報教育の質的向上を目指すことが望まれる。

4．大学ガバナンスによる理解と支援

大学の情報教育が、イノベーションを実現する基盤的技能の一端を担っていることの重大性を学長、学部長が正しく理解していることが重要である。情報活用能力育成の成否が、新たな成長分野を創り出す上で大きく左右することを大学のガバナンス担当者に理解を求める工夫が必要である。例えば、FD研究会などで産業界関係者から新しい価値の創出に向けた人材育成が大学教育に要請されている切実な声を紹介し、ガバナンス担当者との意見交流などにより認識を深める。

その上で、学位授与方針の中で情報活用能力の育成を位置づけ、全学的な体制の中で効果的に情報教育が展開できるように、「情報リテラシー教育及び情報倫理教育の徹底と専攻分野の教育との連携体制の確立」、「教育・学修支援の情報環境及び人的体制の整備」、「分野を横断した研究会の設置と意見交流サイトの整備」、「拠点大学と連携したFDの実施」、「eラーニング教材の開発」、「オープンコースウェアの活用」など、大学のガバナンス担当者に理解を求め、支援を確立することが肝要である。

5．大学の情報教育を発展させる高校教育との連携

本協会が平成23年に実施した加盟大学292校の「情報リテラシー教育の実践状況調査」によれば、大学の8割程度が文章表現、統計計算、情報の加工・表現・発信、セキュリティ知識と情報処理技能を中心とした教育にとどまっており、モデル化やシミュレーション、情報の信頼性の識別など課題探求・解決能力に求められるリテラシー教育の実施は2割から4割と低い。これでは情報通信技術を駆使して新しい価値の創出を目指す人材育成に対して社会の負託に応えられない。

これからの大学に求められる情報活用能力の教育は、これまでの常識や枠組みにとらわれない分野横断的な学修を通じて、協働の中で知恵を創り出し、様々なイノベーションに関与していくことが要請されている。課題を多面的・俯瞰的に捉え、科学的な根拠に基づいて論理を構成し、モデル

化とシミュレーションを通じて課題発見、問題解決に実践的に取り組む力が社会のあらゆる分野で必要とされており、大学教育も社会的要請に応えていかねばならない。

しかし、斬新な発想、独創的な考えを創り出していくには、大学教育を出発点とする人材育成では限界がある。高校教育の段階で情報を科学的に捉える基礎を固めておく必要がある。高校教育を始点とすることで、大学においてさらに深い領域に情報科学を用いて学ぶことが可能となり、現代社会が抱える複雑な課題を解決していく人材育成に大きく貢献することが考えられる。

高校での情報教育は、平成25年度より新学習指導要領で、情報社会に積極的に参画する態度を育てることを目的とした「社会と情報」と、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てることを目的とした「情報の科学」の2科目を共通教科として設置し、生徒にどちらか1科目を選択させることにしている。その履修割合は現時点では定かではないが、「情報の科学」は2割程度になると言われている。その理由として、高校教諭の大半は情報を専門としない数学や理科などの教諭が担当しており、情報の専任教諭が担当している例は極めて少ないとされている。

教科「情報」は他教科への振替えができないなどの理由で、多くの高校で採用されないという事情もあり、教諭の確保が困難となっている。併せて、「情報の科学」を担当する教諭が情報学を体系的に身につけていないことによる指導能力不足の問題も大きい。その結果として生徒に対する「情報の科学」の履修選択の説明に高校側が消極的になっていると言われている。

高校側の教員採用を教科「情報」で採用できるように改めるとともに、大学の教員養成課程の中ですべての教科で「情報教育」を実践するよう科目の編成を改める必要がある。また、「情報の科学」を担当する教諭の研修を大学の支援を受けて継続的に実施するとともに、教材開発や教育内容・方法の研究についても高校と大学が連携する仕組みの構築が急がれる。

いづれにしても高校で情報教育が徹底されその質が保証されなければ、大学での高度な情報教育の展開に支障をもたらすことを高校、大学双方で認識し、改善に向けて可能なところから行動していくことが希求される。 は下図を参照下さい。

社会と情報	情報の科学
<p>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 情報の活用と表現 (2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション (3) 情報社会の課題と情報モラル (4) 望ましい情報社会の構築 	<p>情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) コンピュータと情報通信ネットワーク (2) 問題解決とコンピュータの活用 (3) 情報の管理と問題解決 (4) 情報技術の進展と情報モラル

図 新学習指導要領の「社会と情報」、「情報の科学」の内容